

しんち

広報

8月1日現在

🏠	1.847世帯
♂	4.069人
♀	4.388人
合計	8.457人

18号

47 / 9



とじておきまじまう

百歳もうすぐ

寺島ツルさん

小川の寺島ツルさんは、明治八年十一月一日生れ、満九十七歳の誕生日をまぢかにひかえ、元気な毎日をおくっています。

ツルさんは、孫の福雄さん夫妻をはじめ、娘のクニさん、曾孫(ひまご)の房福さん夫妻と玄孫(やしやご)さんたちに囲まれて、朝はいつも五時半ごろ起床し、部屋のそうじ、庭の草とりなどをして過しています。

耳も目も達者で、腰がわずかにまがっているぐらい。めがねなしで縫いものもできる。

好物は甘いもので、もちが好きサケ、タバコは全然やらない。

ツルさんの生れた明治八年といえば、もちろん常磐線の鉄道はしかれていないし、駐在所も、国道もなかった。

こうした時代から一世紀を生きぬいたツルさんは、世の中が激しく変わったことに、ただ驚くばかりということである。

おとしよりに

豊かな暮らしと健康を

老人の人口が増えるとともに、老人問題は、私たちひとりひとりが真剣に考えるべきところきています。ことしも九月十五日の敬老の日を中心に「老人福祉週間」が実施されますが、この機会に、老人問題についてその関心を深めたいものです。

町の老人

福祉対策

一、健康診査

六十五歳以上のかたを対象に、毎年一回無料で行うもので、この診査の結果、精密検査を必要とするかたについては、相馬公立病院に委託しています。

実際に健康診査をうけるかたは対象者の約三十割(昨年は二五〇名)で、このうち精密検査を必要とするかたが、約一〇割(昨年は三〇名)になっています。

精密検査で最も多いのは、高血圧と心臓疾患です。最近では糖尿病も出てきており注意が必要です。

この健康診査は、としよりのかたの「健康状態」を把握する最もよい機会ですからぜひ健康診査をうけるようにしたいものです。健康診査ではつぎのようなこと

- を行ないます。
- 問診
- 理学的診察
- 尿中蛋白定性検査
- 尿中糖定性検査
- 尿中ウロビリノーゲン定性検査
- 血圧測定検査

二、老人クラブ活動助成

老人福祉法が定められたことで老人クラブに対する助成が行なわれるようになったもので、新地町には現在十六の老人クラブがあり七十三名の会員がそれぞれの活動を行なっています。

ことしは総額で二十四万円の活動補助金がでることになってい

ます。老人クラブの活動は四つの内容をもっています。一、家庭だけの生活から離れ、老人たちだけの気の合った話し合いを行う。

二、老人同志で、民謡や踊りを楽しんだり、また旅行をしたりなどレクリエーション中心のもの

三、老人は老人なりの教養を高め時代の進展に即応した考えをもつために学習をする。

四、地域の公園や、神社、墓地、公共施設の清掃などの社会奉仕を行なう。

町の老人クラブでも、この四つの内容をとり入れて活動をしており、そのおもなものはつぎのとおりです。

- 公園、神社、墓地清掃。
- 海岸清掃、公会堂清掃。
- 血圧測定。
- ねたきり会員の慰問。
- ゴミ捨場の清掃。
- 仏法講話。研修旅行。

三、老人家庭奉仕

ひとり暮らししている老人の身のまわりの世話をするために、奉仕員一名(佐藤フミさん)で行なっています。

現在、奉仕しているのは五世帯あります。

新地町でも、ひとり暮らしの老人が増加してゆく傾向がはっきりしてきています。

これは核家族化の影響ともいえますが、経済的理由や、身内の者

が老人と一緒に暮らすことや世話をするのをいやがる風潮が出てきています。

「ひとり暮らし老人」にとって最大の問題は、経済的不安と病気になる場合の世話などです。

六十五歳以上のかたが経済的やそのほか身体や精神上の理由がある場合は、「養老老人ホーム」にまた常に介護を必要とする場合は「特別養護老人ホーム」にはいれるようになっていきます。

「老人ホーム」は近くでは、原町、富岡にあります。これらは法律に基づいて作られ、施設や設備も整っており、安心して楽しい生活がおくれるようになってい

四、医療費の補助

医療費の補助は、七十五歳以上のかたに対して、保険給付のほか「三割」を県と町が出して、老人のかたたちの医療費が少なくてすむようにしています。

これは来年一月から、国の制度として七十歳以上からになります。そのほか公民館活動として「こ

とぶき学級」を行なっています。老人としての教養を高め、また盆栽そのほかの趣味を楽しむための内容で、毎月一回開き、いつも盛況です。

八十歳以上は

百四十六名

ぐんと多い女性

八十歳以上のかたは、昨年の場合、男五十一名、女七十四名の計百二十五名でしたが、ことしは、男五十四名、女九十二名の計百四十六名で、二十一名多くなっています。とくに女性のかたの長生きがめだっています。

新地町

長寿番付(十位)

- | | | |
|------|-------|----------|
| 年令氏名 | 生年月 | 部落 |
| 九六 | 寺島ツル | 明 |
| 九四 | 加藤イシ | 十、九、下真弓 |
| 九三 | 伊藤フヨ | 十一、十、釣師 |
| 九三 | 鈴木貞吉 | 十二、四下真弓 |
| 九二 | 本内保太郎 | 十三、三、岡 |
| 九一 | 加藤カウ | 十四、八、岡 |
| 九十 | 高橋イセノ | 十五、一、沢口 |
| 〃 | 橋本サダ | 十五、六、藤崎 |
| 八九 | 西谷アサイ | 十五、十、釣師 |
| 〃 | 目黒清平 | 十六、二、新地町 |
- (敬称略満年令)

お待ちごとおさま

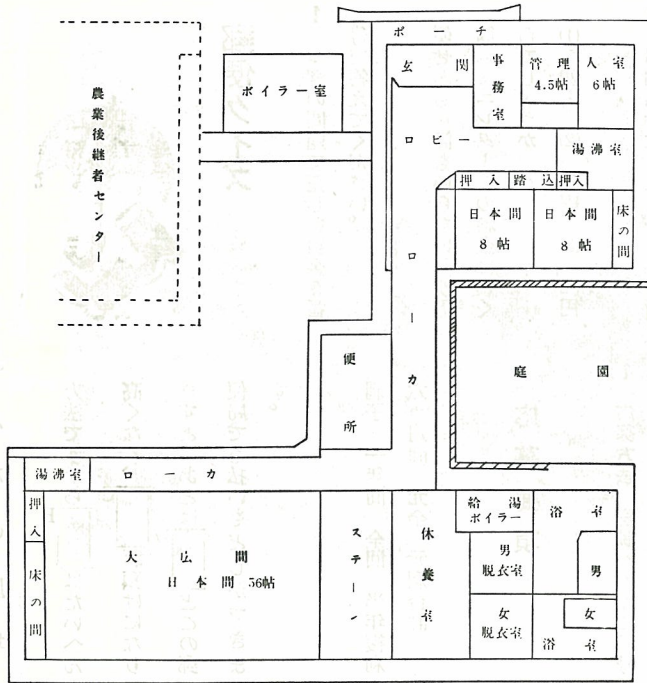
老人憩の家いよいよ着工

おとしよりのかたから一日も早く、矢の催促をうけている「老人憩の家」は、原町市の開場建設(社長関場水治氏)が二千六百六十万円で落札し、着工しました。

老人憩の家は、おとしよりのかたに生きがいと楽しみのある老後を味わっていただくために建てるもので、鉄筋コンクリート造り、

平屋建て、暖房付きで、三九〇平方(約百十坪)の広さです。完成はことしの十二月十日です。ことしの暮か来年早々からお使いいただけます。

なお、場所は役場の南で、昨年完成した「農業後継者センター」に接続させ、老若ともに幸せを、という願いをこめています。



公営住宅も着工

ことしの公営住宅は二十戸(一種十戸、二種十戸)で相馬市の平沢建設工業株式会社(社長平沢昭一氏)が、二千万円の請負いで着工しました。

真弓地区の水道事業は

武藤商会が落札

真弓地区の飲料水供給施設事業は、七月十五日に入札を行ない、東京の株式会社武藤商会(社長武藤一彦氏)が五百万円で落札しま

す。場所は、昨年と同じ愛宕団地で完成はことしの十二月二十日。入居募集は、十一月から行なう予定です。

真弓地区二十四戸に給水するも

ので、ことしの十月末までに完成します。

「新地町商工会」発足

会長に桜井さん

新地町の商工業者の組織である「新地町商工会」が会員百五十四名で発足しました。

いままです新地町の商工業者は相馬市の商工会議所に所属していましたが、これから町独自の商工会として大いに発展が期待されます。

商店の経営指導、金融のあっせん、大売り出しなど、活発な活動が計画されています。

赤十字運動に

ご協力を

赤十字社の組織は、苦しんでいる人、悩んでいる人を助け、お互いの住んでいる世の中を少しでも明るいものにするためにいろいろの事業を行なっています。

この活動に要する費用(社費)はみなさんからの負担でまかなわれています。

新地町では、有功章特別社員に鉄砲町の猪狩重信さんと駒ヶ嶺町の目黒秀雄さんの二名が新たに加入しました。





郵便クイズ

- 1 つぎの問題で正しい料金を番号で答えてください。
便せんも封筒もいらない郵便書筒(ミニレター)の料金はいくらか。
(1) 20円 (2) 25円 (3) 30円
- 2 昭和四十七年九月一日から新発売の簡易保険は、つぎのどれでしょうか。
一、傷害特約付学資保険
二、七倍保障傷害特約付ニュークローバー保険
三、明かるい老後にお祝金傷害特約付長生きの保険
- 3 つぎの文章の□の中に当てはまる字句を後記のうちから選んで書いてください。
定額貯金は半年ごとに元金に利子を加える□の利子計算

方法ですから□はたいへん高くなり、□お預けになりますと、あとは□どこの郵便局でも払いもどしができます。

応募要項

- 1 応募方法 官制ハガキに番号

利子 一年間 全回 半年複利
六カ月間 元金 元利合計

- 2 しめくり
九月二十五日
- 3 あて先
新地町役場企画開発課
- 4 正解者十名のかたに賞品を差上げます。

正解者多数の場合は抽せん。正解者がいない場合は、その分は翌月に持越しします。



消 息

- 七月届出
- | | | | |
|-----|----|-----|-----|
| 秀子 | 目黒 | 富治 | 町 |
| 広幸 | 小泉 | 正三 | 町 |
| 恵美子 | 市川 | 勝明 | 下真弓 |
| 洋美 | 寺島 | 三郎 | 小川 |
| 直也 | 岡田 | 千賀子 | 岡 |
- ▽出生
おめでとございます。
- | | | | |
|-----|----|----|----|
| 美幸 | 中江 | 哲 | 塚浜 |
| 多美恵 | 荒 | 二郎 | 中里 |
| 昌利 | 森 | 直人 | 波民 |
| 俊二 | 荒 | 勝裕 | 木崎 |
| ルミ子 | 大堀 | 勝男 | 岡 |
| 幸広 | 武沢 | 勝雄 | 釣師 |
- ▽死亡
おくやみ申しあげます。
- | | | |
|-------|----|----|
| 河内松四郎 | 76 | 富倉 |
| 菊地 裕一 | 9 | 小川 |
| 只野 ハナ | 75 | 新町 |
| 横山まさ江 | 59 | 明地 |

町長日記

7月

- 21日 改選後初の農業委員会。
 - 23日 シンズン時計(KK)社長 来庁。多摩精密新地工場増築と多摩研磨工場新設について。区長会。道路愛護について。原町学園長来庁。施設充実にあつての陳情。
 - 27日 国保団体連合会総会出席 (県国保会館)
 - 29日 老人憩の家入札。防犯協会理事会。
- 8月
- 1日 町議会常任委員長会。
 - 4日 国道113号線改良促進のため上京し、建設省に陳情。
 - 5日 公営住宅入札。
 - 7日 臨時町議会。老人憩の家 公営住宅入札について。
 - 9日 老人憩の家起工式。農業委員研修会。
 - 10日 常磐線複線化促進陳情のため上京。
 - 19日 県総合体育大会新地会場 (すもも) 開会式。



声

今神菅谷線道路の改良を

駒ヶ嶺 A生

当町内の道路は他の市町村よりたいへん良くなっています。駒ヶ嶺地区の道路は未改良が多いように思われます。

とくに今神、菅谷線の道路は町長さんのお膝元でありながら狭いうえにカーブが多く危険であり、また産業の交流発展をさまたけています。最近では自家用車が増え、よそからくる車も多くなっています。町長は、お膝元のこと、遠慮されているのではないのでしょうか。一日も早く改良されるように願います。

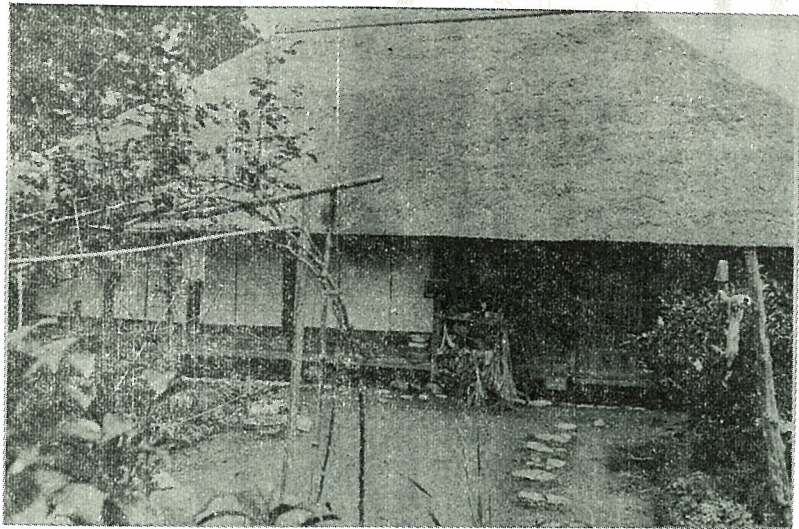
町内名所旧跡めぐり

いた木崎出身の目黒重真の提唱で新地方部の村長や有力者(小泉平策、大堀門治、松谷昌平氏ら五四名)と語り伊達藩藩賢堂教授だった氏家晋氏(号閑存)を招き共立学校の設立を計画した。

「観海堂」中島

昭和四十一年四月、福島県文化財史跡指定

明治五年二月、学制発布に先立ち当時角田県伊具郡の助役をして



〔観海堂〕

最初、字新地水戸狂吉氏隠宅をもって仮校舎とし、明治五年三月

から晋氏の長男である氏家昭磨氏が父君の代理として来村し、教授にあつた。同年四月に字中島の黒田喜久治郎氏宅を共立学舎とし、五月にいよいよ氏家晋氏が来村して開校式を行ない、この学舎を「観海堂」と名づけた。お茶水女子大名普教授、石川謙氏は「観海堂」の遺跡についてつぎのようにいっている。

「氏家閑存翁を招へいして公教育を実施した観海堂の事跡は、近代教育文化のさきがけとして尊重せられる価値がある。明治六年、公立小学校に転換す

俳名「丁々起因」(承前)(二)

佐々木 四浪

丁々の雅号が水の流れる丁々より来ているが、木を伐る丁々ではない。たゞすこしばかり俳句が作れると云うだけで、おのれの俳句眼を他に披露するために、偉大なる村の先達をよく知ること

からないことを恐れるのである。俳人丁々を斯くあらしめた今は亡き大内昇氏の友情こそ深く感じ取らねばならないと思う。今なお健在でおられる丁々友人の一人である大堀虎杖先生も、こう書いて

「丁々君に俳句の目を開かせた

のは大内昇氏である。只それだけでは氏は俳句の達人であるかの様に思はれるが、僕は大内氏の俳句に接したことがないのである。丁々君の語るところによれば大内氏は丁々君の無聊を慰めるために雑誌ホトトギスを贈られたことに始まるのであつた。然もそれは最後に至る迄二十数年に及んでゐる。明治は遠くになりけり、と云うことはあるが、私は昔の人のこゝろした人情と真実とに対し郷愁的なものを感ずるのである。丁々雅号起因はこの如く明白である。丁々の好みによって成った俳名ではなく、丁々をとりまく限りなき友情と人の世の真実とがあつたことであつた。私も俳句にかゝりをもつ一人として「俳人である前に先づ人間でありたい」と希っている。丁々の斗病即俳句生活は二十四年間昭和十六年十一月二十四日午前三時冬雨降る早暁に永眠されしとのこと。尚大内氏、大堀先生の文を無断引用させていただいたことをお許し願つてこの稿を終ります。

九月十五日から

二十一日まで

「老人福祉週間」

ことしの「老人福祉週間」の重点は、つぎの三点です。

一、老後のくらしと健康を高める運動を進める。

二、老人のおかれている生活条件をととのえ、住みよい地域づくりをすすめる。

三、老人の役割と生きがえを考える。

▽家庭で行なうこと

・家中そろうって「おじいさん、おばあさんありがとう」の趣旨で

老人を中心とする家族団らんのふん囲気をつくる。

・老人の健康をたかめるための食生活を工夫する。

・家庭の中で、老人にふさわしい役割りについてみんなで考える
・老人クラブへの参加をすすめる
その育成をはかるようにつとめる。

・老人のためにあかるい住みよい部屋をつくるなど、生活をたのしくするようにつとめる。

▽おとしよりのかた自身が行なうこと

・特技などを生かして、町村のためになるような奉仕活動を行なう(公園公会堂の清掃など)

・若い人の考えや気持ちを理解するように努める。
・健康に留意する。

・老人クラブに積極的に参加する。

△老人クラブが行なうこと

・社会奉仕活動をすすめる、病床にあたり、ひとり暮らしの老人などを訪問する。

・老人クラブに、若い人や子どもを招き、話し合いやレクリエーションを楽しむ。
・老人クラブの会員の増加をはか



おしらせ

税金はみんなのために

使われています

わたくしたちが生活していくた



めには、道路や上下水道、学校など社会全体として必要なものがたくさんあります。このようなものを整備して、暮らしを豊かにしていくために、国や地方公共団体はいろいろな事業を行なっています

が、このような仕事に使われるお金の大部分は、わたくしたちが納めた税金でまかなわれています。昭和四十七年度の国の一般会計

予算は約十一兆四千六百七十六億円で、このうち約八〇％は税金です。

これを、税金千円あたりの使いみちしてみると次のとおりです。

国民の健康や生活を守るために 一七五円

道路や住宅などの整備のために 一八七円

教育と科学技術の振興のために 一一四円

国土の防衛のために 七〇円

地方財政の援助のために 二〇四円

国債の償還や利子の支払いのために 四〇円

その他いろいろな国の施策をまかなうために 二二〇円

合計 一、〇〇〇円

退職金と税金

― 他の所得と分けて計算 ―

退職金は、永年の勤務に対する慰労金でもあり、老後の生活保障のための最後の収入でもあるため退職金に対する税金は、給料などに対する税金に比べて軽い負担です。よ、ほかの所得とは分けて計算し、源泉徴収することになっています。

税金の計算方法は、退職金の収入金額から、その人の勤務年数に応じて計算した退職所得控除額を差し引き、その残額の二分の一が課税の対象となります。また、住民税も同様にして計算されます。

老人に愛の手を

